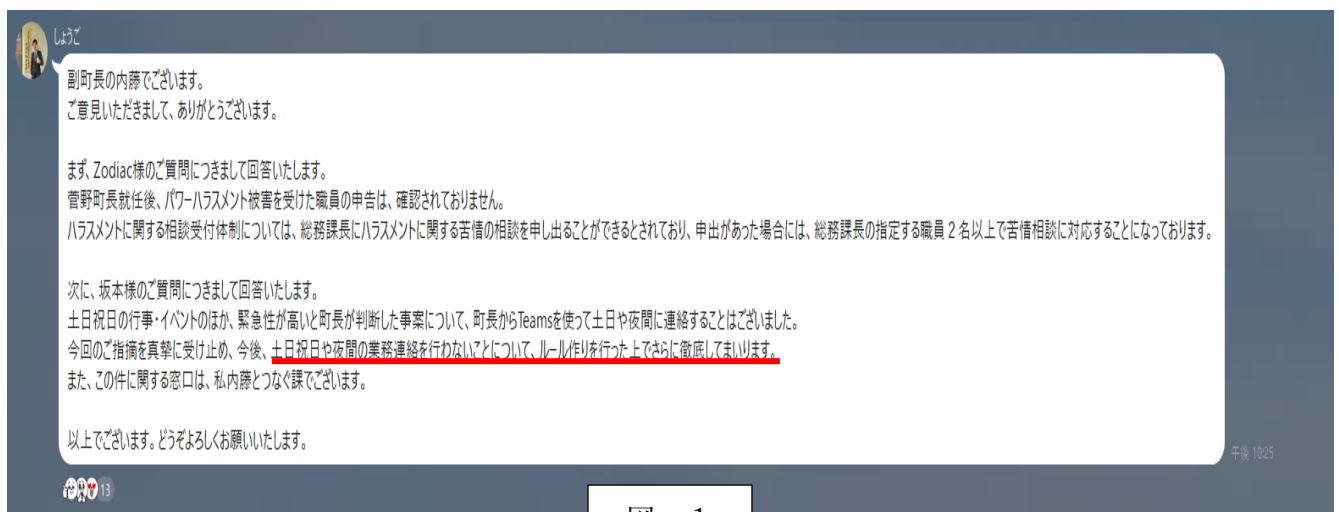


ところで、一つ気になったことがある。図－1～西川町オープンチャットの中の副町長の発言「今後、土日祝日や夜間の業務連絡を行わないことについて、ルール作りを行った上でさらに徹底してまいります。」の処である。2025(令和)年3月17日～19日頃の投稿か？

『休祭日に業務連絡を行わない』ルール作りというが、そんなルールを徹底したら、やがては休祭日に仕事の話すら出せなくなる、そんなルールは作るべきではない！ よほど、文言に注意する必要がある、慎重さを要する。風に流されて軽はずみに、軽率に決めると、自らの手かせ足かせを招く、町長以下の幹部のみならず、職員みな自らの言動を縛ることになる危険性大である。土日、休祭日の町が絡むイベントは出来なくなる、町職員の参加さえもできなくなる可能性が出て来る。ルールを作るとなれば、町長、課長レベル、係長レベルなどの職位毎に作成する必要が生ずるのではないのか？ 場所とか、会合のレベルなど事細かく設定する必要が生ずるのではないのか？



図－1

そんなことになったら職員はみな萎縮するのは必定である。図－2～西川町に溢れている「よそ者・バカ者・若者」、「すっだいを実現する町」、そして、「寛大三美言」、「ごちゃ混ぜ」の心を汲み取る行政、すなわち、寛容性／DEI（多様性・公平性・包括性）を標榜する町長の存在意義は雲散霧消に帰してしまう。この場は政治の話はだめだとか、宗教の話は絶対にだめだとかの裁判官風の仕切屋の跋扈を許したら、町の風土はどうなるの？



図－2

私の基本認識は“時間・空間は昼夜を問わず「公・私」を一貫しているのだ！”。私的時間と就業時間の区別は、人工的作為の、便宜上の仮置きなのだ、という考え方である。つまり、

プライベート時間中にも仕事のことが気になるだろう！

仕事中にプライベートのことが気になるだろう！

そもそも、コミュニティであれ、何らかの会議体であり、諸々の人間活動は、普段から政治・行政と密接不可分、表裏一体なのだ。プライベート時間帯であっても、互いの社会的身分・組織内身分を問わず、平日、休日を問わず、遊び・スポーツ、地域イベント、酒飲み懇親、諸々の会話において、仕事のことが話題に挙がることは極普通の日常的な風景である。その中で“月曜日になったらあれを頼むよ”“あの仕事、もっと良いアイディアないかね”“あれ、ちょっと失敗したが、次回はこうしようぜ”・・・などというのは平常時会話の一旦である、この中にある組織内の役職名を持つ人が絡んだら、業務、あるいは仕事の指示と言うのか？

例えば、管理職の貴方が、重要課題について、月曜日の朝、何の前触れもなく突然、“〇〇さん、あの国への補助金獲得申請について、午前中にA3版1枚、表裏に完璧な計画に仕上げてくれ”と指

示命令された場合にどうするのか？　そこで、「寛大（管大）^讀三美言」——④私の仕事じゃないと言わない（それも私の仕事だ）、⑤利他、⑥先回り——と真逆の「醜態三否言」（出来ない、無理だ、やったことない）の態度を取ったらどうなるのか？　もしも、時間切れで中途半端で町長に報告出来るのか、その中途半端は即人事評価に反映（マイナス評価）されても文句を言えないことを覚悟できているのか。面子丸つぶれであろう！

町長が、もしも、休日に役場のデスクに来て、業務の完成を命令し、業務の完成完結を求めて実務をやらせたならば、その時間外（超過勤務）申請について事後手続きをルールに則り行えば済むことであろう。

あるいは、休日において発言した月曜日以降の業務稼働に係る事前指示は、ウィークデーにおける業務命令の前触れとしての段取りの範疇だろうから何ら問題はないのだ。管理職たる者はその受命は至極当然と受け止めるべく責務があるのだ。

そんなに町長が、上司が、同僚が気に食わなかったらさっさとそんな職場は辞めればよいのだ。佐藤議員に垂れ込んだという元職員は、菅野大志町長が就任する前までは、税金で^{まかな}賄われる恵まれた環境の中で、ぬくぬくと、ゆるゆると放縱の体で業務に当たって来たのではないか。ところが、菅野町長は寛大三美言「④私の仕事じゃないと言わない、⑤利他、⑥先回り」を以って意識改革を図り、業務遂行を促すものだから、経験したことのない厳しい業務命令と受止め、心身ともに悲鳴を挙げたということだろう。

例えば、第一次産業従事者の大半、あるいは、自営業者、個人事業主において、“今はプライベート時間（休祭日）だから、仕事の話は受け付けない。”などが通るのか？　それがOKならば自業自得で自滅するのみだろう。

税金で守られようとする姿勢は、全体奉仕者としての公僕の使命感を放棄したものであり、即刻退場を願う他はない。

世の中には、全国を股に掛け、世界中を駆け巡り、戦火の地で業務に精励・奮闘・活躍している人は沢山いる。足元を見ても、我が国防の要を担う自衛隊、治安維持に当る警察、消防、救急隊員、電力など過酷な自然環境と戦いつつ社会インフラを死守している人達が沢山いるのだ。西川町でパワハラだと騒いでいる役場職員（現職・OB）は、そのような人達に「負けず劣らず」「勝るとも劣らない」「引けを取らない」と、過酷でも熾烈な競争下でも全力投球で使命感に燃えて来たと自信を持って社会に公言出来るのか？

冒頭部に書いた副町長のいうルールを作ると、今度は、例えば、**業務中において高度・難解なテーマの課題解決命令を下した場合、“それもパワハラだ”と騒がれることになるぞ・・・。**

つべこべ愚痴る前に、全てを解決する特效薬がある、『(嫌いと思う) 他人から厳命される前に、あうだこうだと指示される以前に、他人（上司）の思いを先回りし、先手先手で課題解決策を提示して行くこと。』 さすれば、他人から文句を言われまいだろう。この行動に尽きる。この^{うず}疼く行動は人間の^{さが}性である。そういう実績を残してからパワハラだと言え。

(end)